

スクールホットライン

「心あたたまる卒業式」

去る三月六日、豊山中学校第七十一回卒業証書授与式が、厳粛な雰囲気の中で挙行されました。百四十五名の卒業生が、服部町長をはじめ、多数のご来賓と保護者の皆様方に見守られながら、熱き思いを胸に巣立っていきました。

卒業生にとっては、この卒業式が義務教育の最後であり、豊山町で共に育ち、励まし合った仲間との別れの式でもありました。

式では、卒業生を代表して今井陽大君が総代として卒業証書を、丹羽未沙子さんが代表として卒業記念品を受け取りました。それぞれが生徒を代表して、堂々たる立派な態度でした。

その後は、在校生の心温まる送辞を受けて、卒業生の西村京華さんが答辞を述べました。三年間の色々な行事・部活動での思い出や、お世話になったお父さんやお母さん、先生方や地域の方々への感謝の気持ちなどを、穏やかな中にも熱い思いを込めて述べ、力強くはばたいいく決意となる立派な答辞でありました。

式後の卒業生全員による合唱は、本年度も「大地讃頌」を歌いました。その心のこもった歌声とハーモニイは、本校の伝統の重みを感じさせるすばらしいもので、聴く人々を感動させました。

百四十五名の卒業生の皆さんが自信と誇りをもって進路先で活躍し、未来が幸多きものになることを、心から願っています。

from 豊山中学校



私の航空史

岡野 允俊

新入社員

四月は新入社員のシーズンである。

三菱のような大企業は当然新入社員も多い。名航に配属になった新入社員が集合教育を終えて工場見学に来る。皆希望に燃え明る頼もしい顔をしている。先輩の工場案内を真剣に聞き入っている。中でも病院に勤務する看護師さんは案内者の説明が始まると皆メモをとる。これは看護学校での教育方針であり、看護師としての驕なのである。名航の歴史や、飛行機の常識を知っておいてほしいものであるが中には入社してほっと一息、これで安泰と言わぬばかりに気楽なムードがうかがわれる人もある。

中小企業、老舗、個人商店ではこうはいかぬ。入社人数も限られ、即戦力であり、その日から接客対応が始まり、それが新入社員教育であり訓練である。大きな料亭などでは即日接客に入る。客は新入社員だからと言って甘く見てはくれない。料理を出す順序、料理の説明をはじめ、やること、覚えること多々である。まして料理をひっくり返しては大変である。初めての舞台上緊張もするであろうが、まずはこうした失敗がなければ上出来であろう。それに比べると多数同時に入った大企業の新

入社員にはそんな緊張感はない。時には学校の延長感覚でさえある。こうして五年、十年も経つともう大先輩となり仕事の内容も増え重鎮となる人もあるが中には胡坐をかいてしまう人もある。私は新入社員としての入社式、配属スタートなどという気合を持った記憶はない。三菱熊本機器製作所、同西部整理事務所、同名古屋製作所等へ業歴で入っている。新入社員扱いの教育を受けたことはなく新入社員というフレッシュな気持ちは知らずにきた。入社時はいよいよ加減な入り方をしたが出るときは無事定年まで勤め上げたという満足感に浸りながら出て行った。

平成二年、新設された「名航史料室」の面倒を見よとのことで、我が意を得たりとばかりに、このときはじめに新入社員並みの新鮮さを感じ、零からのスタートに遣り甲斐を覚え、「名航へ行ったらなにはともかく史料室だけは見て来い」と言われるような史料室を造り上げようと鋭意努力。航空ジャーナリスト協会、産業遺産研究会に加入、知識を得、寄稿、講演等でPRに努めてきた。希望にあふれ、期待をされて入ってきた新入社員と違って途中から割り込んできたが、都合六十余年もお世話になり出口だけはいっぱしの顔をして卒業させてもらった。楽しく意義のある三菱生活であったことを誇りに思い身を引かせていただいた。こうして育てて頂いた三菱に今後も日本の重工業を担い、その活躍を念じたいものである。

特集

町政あんない

情報コーナー

まなびすと

キラリ健康ナビ

わいわいプラザ